平成 27 年度政策討論会第二分科会要点記録

・日時　平成 28 年 2 月 15 日
・場所　第 1 委員会室
・会議時間　13：00～13：31
・出席者　座長　　岡林　憲二
　　副座長　　金子　拓矢
　　稲田　悦治
　　井上　博
　　今口　千代子
　　岩﨑　雅秋
　　烏野　隆生
　　米田　貴志　　（五十音順）
・今回の狙い　本分科会のテーマは、「岸和田の観光におけるインバウンド観光客の取り込みについて」である。前回、岸和田商工会議所、岸和田市観光振興協会、本市観光課からインバウンドに関して知識を有する担当者を招聘し、今後の本会においてより一層の議論を深める為に、各組織はインバウンド観光客の取り込みについてそれぞれどのように取り組んでいるのかにつき説明を受けたので、今回その内容について意見交換した。

発言要旨（順不同）

①　前回の観光振興協会・岸和田商工会議所・観光課の話を聞き、三社の連携の必要性と官と民との協力体制が必要だと思いました。
　また、無料ＷｉＦｉや免税店の準備が大事です。そして、久米田池が世界かんがい施設遺産に登録・神於山が生物多様性保全上重要な里地里山に選ばれた事等を通しての観光とのコラボした施策はどうかとも考える。

②　三名の方々にそれぞれの立場からのご意見をお伺いいたしましたが、総じて十分に対応出来ていないという印象であり、特に商工会議所においては、取り組みはほとんどしていないということである。本市の強い後方支援がなければ動けないのかもしれない。また、ＷｉＦｉ環境の充実はやはり必須であることも確認できた。
特に、観光振興協会について、限られた予算の中では選択と集中が必要になるが、台湾に的を絞った取り組みを始めている点は評価できる。

③　第七回分科会では、外部関係団体（岸和田市観光課・岸和田市観光振興協会・岸和田商工会議所）三団体から、本分科会のテーマについて、現状における取り組み等についてご説明を頂きました。関係団体と協調して対応していると言っているが、その関係団体も活動が鈍いと思われる。結局、三団体とも取り組みはしていない。勿論、三団体による連携はない。先ずは、観光課が明確かつ具体的な計画を策定し、各々の役割分担を

数値化する等明確にし、目標を定める必要がある。特に、阪南市等の先進市で見受けられるように観光振興協会の会長・局長等の重要ポストは観光行政等の経験者や専門知識を有する方の公募等により採用することが望ましい。観光振興協会が独自の観光に関する調査等を他市観光振興協会では、数値化したデータに基づき、観光行政に取り組んでいると仄聞する。商工会議所も同様で、現段階においても、ビジネスを通してインバウンド観光客等の取り組みは可能である。コーディネートできる人材の確保が必要である。

④　三分野の方々から、観光への取り組み、インバウンドへの取り組みを伺いました。市観光課の努力されている様子はわかったが、インパクトに欠けていた。今後の取り組みのスケジュールが示されていたので、計画を実行していくことを期待。観光振興協会は、岸和田の観光の推進力として役割は大きいと思う。商工会議所については、取り組みの内容が、示されなかったように思う。市の取り組みの実行部隊と表現されていたが事業者の主体的な動きを個々ではなく、集団作りで盛り上げていけないものかと思った。
今の日本の中小企業のおかれている現状では無理なのかもしれませんが、三分野の方々の協議体なども必要でしょう。

⑤　商工会、観光振興、観光課ともそれぞれ考えてはいるが、取り組みについては準備中、予定検討中などが多く、本気度が見えてこない、又、各団体間に連携がとれていないのでは。

良い提案や彼らの本気度に対しては、議会として背中を押してやる必要がある。

観光課を設置はしているものの、一方で市全体や市長の本気度がまったく見えない。

これほどマスコミでインバウンドの爆買いが流され、議会で政策討論しているにもかかわらず、市長が姉妹都市へセールスプロモーションを図ったという話は聞かない。

インバウンド観光客のメインは中国人である、中国の汕頭市や上海市楊浦区などの姉妹都市からも多数の観光客が来ているはずだ。原市長の時代には、こちらから向こうに頻繁に訪問し、交流も活発に行われていたが、この数年、交流も活発に行われていたが、この数年、交流も途絶えがちになっている。
今こそ市長が中心となって交流を促進すべきではないか。

⑥　前回の三者によるインバウンドの取り組みについて、連携が取れていないことと、目的とする方向性がとれていないことと、目的とする方向性についても食い違いがあり、観光課、観光振興協会が、もっと連携を取り、本気の観光についての取り組みが必要であると思います。具体的な目標が三者とも明確になっていないため、観光に対する意識の違いもあり、行政が効果的な連携を先駆けて実施する必要があると思います。

⑦　前回の分科会で観光課・観光振興協会・商工会議所からインバウンドに対するそれぞれの立場でのご所見を伺った。浮き彫りになったことは、その三団体でインバウンドを共通のテーマとして協議されていない事に驚きを感じた。それは本市では未だインバウンドへの取組みが本格化していない証拠に思えた。なので、早急に例えば岸和田市のインバウンド連絡協議会なるものを立ち上げて本市のインバウンドに対するベースを作

るべきであると思う。

本市としても民間団体に、本気でインバウンドに取組む姿勢を見せる事が重要である。これから発信されるであろうシティーセールスの中においても協力に発信されることが大切である。

⑧　岸和田市観光課・岸和田市観光振興協会・岸和田商工会議所の三団体は、大きな方向性は共通していると思うが、連携がとれていないように感じた。

無料公衆無線の充実とともに、外国人留学生に観光ＰＲのお手伝いして頂いているのは気になるし、今後もっと人数を増やしていければいいと思う。それから逆のパターンとして、日本人では外国語の勉強している人たちにも加わってもらったたら更に効果があると思う。ファムトリップも観光ＰＲに効果があると思う。

以上